

イチジクの高品質果実の安定生産

要約

- ・県チャレンジ品目のイチジクでは、果実品質のばらつきや病害虫による生育不良が課題。
- ・高品質果実の安定生産にむけて「出荷」と「栽培」の両面から支援。
- ・産地ブランド力の増進を目指した新たな出荷規格の策定とともに、首都圏市場を視野に入れた新たな販路開拓にむけて動き出した。
- ・株枯病抵抗性台木導入戸数が5戸→15戸に増加。難防除病害虫防除の意識が高まった。

現状(背景)と課題

(出荷面)

- ・長期間にわたり出荷規格が未更新
- ・取引単価が低調

(栽培面)

- ・株枯病の発生による生育不良
- ・アザミウマ類の発生による果実品質の低下

目標

(出荷面)

- ・新たな出荷規格の策定
- ・首都圏出荷等による新たな販路の開拓

(栽培面)

- ・株枯病抵抗性台木の導入
- ・アザミウマ類による被害果率の低減



活動内容 (対象：イチジク生産者および出荷組合)

- ・新たな出荷規格の策定を目指して、出荷規格検討会を開催した。また首都圏市場（築地市場・大田市場）への出荷調査や先進地視察（福岡県）により、有益な情報を収集するとともに生産者に伝達した。さらに、一部の出荷組合に対して首都圏市場出荷検討会を開催し意見交換を行った。
- ・講習会において、株枯病抵抗性台木の推進や巡回による指導の強化を行った。また、定期的な発生予察によりアザミウマ類の発生状況と防除について情報発信を行った。

成果

- ・長年更新されていなかった出荷規格を更新し、新たな出荷規格を策定した。
- ・一部の出荷組合に対して、首都圏市場出荷にむけて動き出すための支援ができた。
- ・株枯病抵抗性台木(ネグローネ)の導入戸数が5戸→15戸に増加した。また生産者に対して、株枯病やアザミウマ類といった難防除病害虫の防除の重要性を意識醸成することができた。



栽培勉強会



首都圏市場出荷検討会



接ぎ木講習会

北部農林振興事務所 農林普及課
担当：農産物ブランド推進第一係
角川由加・辻章宏
(チャレンジ品目支援事業)

普及活動のポイント

- ・関係機関（JA ならけん片桐支店、農業水産振興課）と連携し、栽培勉強会や出荷検討会等を通じて、イチジク出荷組合に対する支援を効率的に行った。
- ・難防除病害虫の防除について、定期的な発生予察や巡回指導により、生産者に対して情報発信や指導を行った。

対象の変化

- ・高品質果実の安定生産にむけて、栽培だけでなく出荷に対する意識が変わった（生産者）。
- ・次年度から首都圏市場へのお荷に取り組みむ団体について、生産者の意欲が向上した（出荷組合）。
- ・株枯病抵抗性台木について、生産者からの問い合わせが増加するとともに、接ぎ木や苗木の購入に積極的に取り組みむようになった（生産者）。

対象者からのコメント

- ・「新しい出荷規格は基準が厳格であるため、品質低下の抑制につながることを期待する」（出荷組合）
- ・「単価の底上げのためにも、首都圏市場へのお荷に取り組みんでみようと思う」（出荷組合）
- ・「難防除病害虫の防除について、適期防除の重要性を再認識できた」（生産者）

これからの活動ビジョン

- ・本課題においては普及活動重点課題として、イチジク生産者および出荷組合に対して今後も継続して技術指導および情報発信を行う。また、次年度から始まる首都圏市場へのお荷の取り組みに対して、関係機関（JA ならけん片桐支店、農業水産振興課）と連携しながら支援していく。

活動体制

